

Academic Integrity Policy

学問的誠実性の方針

Utsuho Academy Primary School

うつほの杜学園小学校

1. はじめに

本学は、「未来を拓くグローバルリーダー」を育成するという目的の元、「世界とつながる・地域とつながる・自然とつながる」という理想をもって、子どもたちの心に愛と知性と正しい良心を育む「グローバル・バイリンガル・探究授業」という独自の教育方法を考え出しました。この教育法に基づき、本校では「関係力」「探究力」「創造力」を学校として重視する力として掲げています。そのため、児童、教師、保護者を含む学校関係者全員が、学問的誠実性の意義を理解し、取り組むことが求められています。

2. 学問的誠実性の定義

学問的誠実性とは、教育における指針であり、他者が個人として信頼を寄せることができるような責任ある行動を選択することです。これは、正当で本物の、そして誠実な学問的作品を制作する際の倫理的な意思決定と行動の基礎となるものです。そして、「誠実さ」「信頼」「公平性」「敬意」「責任」の5つの原則に基づくものです。評価される作品は、どのようなスタイルであれ、すべて児童が自分の言葉で、自分の考えと表現で作成したものでなければなりません。各児童は、それが本当に自分自身が作成したもの、または取り組んだものであるという責任を持つ必要があります。他人のアイデアや作品を使用した場合、それが直接の引用であれ、参考であれ、そのアイデアや作品の出所を適切な方法で説明する必要があります。

3. 役割と責任/Roles and Responsibilities

3.1. リーダーシップチーム（管理職及びコーディネーター）

学校リーダーシップチームは、学問的誠実性を理解し、積極的に児童に伝え、学問的誠実性の重要性を支持する学校文化を育てる責任があります。私たちは、学問的誠実性が、私たちの学校が重要視する力である、「関係力」「探究力」「創造力」の重要な要素であると信じています。学校リーダーシップチームの全てのメンバーは、次のような責任を負います。

- ・学問的誠実性の価値観（誠実さ、信頼、公正、尊敬、責任）を模範とする。
- ・コミュニティのメンバー間で、学問的誠実さの文化を構築する。

- ・学問的誠実性についての理解を深められるよう、担任及び専科教員をサポートする。
- ・学問的誠実性のモニタリングを適切に行うためのリソースを提供する。

3.2. 教育と学校のコミュニティ

学問的誠実性に関わる不正過程に焦点を当て、すべてのスタッフが適切にモニタリングを行い、学校およびカリキュラム・コーディネーターをサポートする必要があります。

3.2-1 教師の責任

すべての教員は、児童が学術的誠実性を常に支持することを保証します。特に知的所有権は、児童がそれらを使用するときに重要視される必要があります。すべての教職員は、児童たちが学問的誠実性に反するだけでなく、著作物の法的保護に反する可能性もあるため、学習やレポート、エッセイの作成における盗用の悪質さを説明します。児童が知的財産の一部を使用したり、探究で使用したい場合には、児童はその許可を得る必要性を調べたり、研究作品の脚注にオリジナルの作品やテキストを引用またはコピーする証拠を示したりすることを勧め、教員は慎重にその手続きについて説明し、学問的誠実性の重要性を認識させる必要があります。コーディネーターと担任教師は、保護者会、個人面談、学年末の面談などあらゆる機会を通じて、保護者に学問的誠実性の重要性を説明します。

3.2-2. 保護者の責任

学問的誠実性の違反行為を管理するためのプロセスに焦点を当て、保護者には、次の行動を期待しています。

- ・学問的誠実性に関する指針を理解し、児童の責任ある行動を奨励することによって、子どもたちをサポートする。
- ・児童の学業上の不正行為とその結果を示すものを理解する。
- ・学校の管理ミスとその結果を示すものを理解する。
- ・自分の子どもに対して、課題を完了させるための支援をしたり、子どもが支援を得たりする手助けをしない。

3.2-3. 生徒の責任

学問的誠実性に反する行動を管理するためのプロセスに焦点を当て、~~IB~~の児童は、自分の学校、カリキュラム・コーディネーターや教師をサポートしなければならず、次のことを期待されています。

- ・学問的誠実性を理解し、彼らの学習において倫理的行動に努めるように教えられて

いる。

- ・学術的誠実性のガイドラインに従い、正直に学ぶ。
- ・自らの行動とそれらの行動の結果に責任を持つ。

4. 過誤の定義(決して認めないもの)

*過誤には以下の例が含まれます。

- ・作品盗用（剽窃）：外部情報源の写し
- ・友人の課題を盗作する：他の児童の課題を写すことおよび課題を援助すること
- ・共同作業時の共謀課題の提出
- ・委託、編集、または第三者から取得した課題の提出
- ・課題の重複
- ・データ改ざん

5. 不正事項が生じた際に取りうる対応

学校として、児童が自分の行動を振り返り、よりよい行動を導くことができるように支援します。児童が学問的誠実性に対して理解していない場合は、リーダーシップチームや教員が説明を行います。必要な場合は、教師、保護者、学習者、管理職、コーディネーターが参加して面談を行います。

*この文書は、変更の必要が生じる等の特別な場合を除き、二年ごとに理事・教職員によって見直しを行う。

2024/09/27